



## 2025年2月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2025年1月10日

上場会社名 株式会社シー・ヴィ・エス・ベイエリア 上場取引所 東  
 コード番号 2687 URL <http://www.cvs-bayarea.co.jp>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 泉澤 摩利雄  
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 管理本部長 (氏名) 寺原 房江 TEL 043-296-6621  
 配当支払開始予定日 —  
 決算補足説明資料作成の有無：無  
 決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2025年2月期第3四半期の連結業績（2024年3月1日～2024年11月30日）

#### (1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	営業総収入		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年2月期第3四半期	5,958	5.3	449	0.8	446	△3.8	919	133.7
2024年2月期第3四半期	5,658	10.4	446	—	464	—	393	—

(注) 包括利益 2025年2月期第3四半期 914百万円 (127.8%) 2024年2月期第3四半期 401百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2025年2月期第3四半期	186.25	—
2024年2月期第3四半期	79.70	—

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2025年2月期第3四半期	10,979	4,175	38.0
2024年2月期	10,281	3,359	32.7

(参考) 自己資本 2025年2月期第3四半期 4,175百万円 2024年2月期 3,359百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年2月期	—	10.00	—	10.00	20.00
2025年2月期	—	10.00	—		
2025年2月期（予想）				10.00	20.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

### 3. 2025年2月期の連結業績予想（2024年3月1日～2025年2月28日）

(%表示は、対前期増減率)

	営業総収入		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	7,768	3.3	442	△9.1	382	△9.1	1,008	44.5	204.20

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2025年2月期3Q	5,064,000株	2024年2月期	5,064,000株
② 期末自己株式数	2025年2月期3Q	127,651株	2024年2月期	127,651株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2025年2月期3Q	4,936,349株	2024年2月期3Q	4,936,349株

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー：無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在において入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は、様々な要因により大きく異なる可能性があります。

## ○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況 .....	2
(1) 当四半期の経営成績の概況 .....	2
(2) 当四半期の財政状態の概況 .....	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	5
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	9
(セグメント情報等の注記) .....	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	10
(継続企業の前提に関する注記) .....	10
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記) .....	10

## 1. 経営成績等の概況

### (1) 当四半期の経営成績の概況

当第3四半期連結累計期間における我が国経済は、2024年4月以降、急速な円安進行や原材料価格の高止まりと不十分な価格転嫁を背景とするコスト負担の高まりが景気の下押し要因となり、個人消費の低迷が顕著となるなど、国内景気には不安定な要素が見られたものの、7月以降、堅調なインバウンド消費や行楽シーズン下における個人関連消費が全体を牽引し好調に推移いたしました。続く10月は、節約志向の高まりから個人消費には若干の停滞が見られたものの、11月には再びレジャーや娯楽に対する消費行動が活発化したことに加え、インバウンド消費の拡大が続いたことから、国内景気は個人消費の動向を軸としながらも、底堅く推移する傾向が見られました。

こうした環境のなか、当社グループにおきましては、マンションフロントサービス事業において安定した収益を確保したほか、ホテル事業においてはインバウンド消費の拡大と秋の行楽シーズンによる国内旅行や大型イベントの積極開催を好材料とし、個人のみならず団体宿泊需要の獲得にも積極的に取り組み、販売コントロールを強化したことで、千葉県内ならびに都内の施設は連日高稼働を維持し、売上高・利益ともに大きく伸ばいたしました。

また、2023年7月の事業用地取得以降、建築工事を含む開発行為を進めておりますアウトドアリゾート施設（千葉県成田市）は、その名称を「THE FARM SLOW MOUNTAIN NARITA」（ザファーム スロウマウンテン成田）とし、開業予定日を2025年3月1日と定め、2024年9月3日より専用サイトをオープンの上、宿泊予約の受付を開始しております。2024年12月末までにおおよその工事を完了し、2025年1月には物件の引き渡しが予定されるなど、開業に係る準備は概ね計画通りに進行しております。開業準備の進行に際し、人件費等を含む販管費の発生はございますが、当第3四半期連結累計期間における損益に与える影響は軽微であります。

以上の結果、当社グループの当第3四半期連結累計期間における業績は、営業総収入59億58百万円（対前年同期比5.3%増）、営業利益4億49百万円（対前年同期比0.8%増）、経常利益4億46百万円（対前年同期比3.8%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は9億19百万円（対前年同期比133.7%増）となりました。

当社グループのセグメントの業績は次のとおりであります。

#### ① ホテル事業

ホテル事業におきましては、東京都心や千葉県市川市、浦安市内において、ビジネスホテル及びユニット型ホテルを運営しております。

千葉県内で運営するビジネスホテル施設におきましては、近隣の大規模テーマパーク、大規模催事場、商業施設等において大型イベントが連日開催されるなど、レジャー関連を中心に宿泊者数が大きく増加したことに加え、団体宿泊需要獲得への積極的な取り組みも継続して行いました。加えて、複数名利用のニーズに即したプラン設計や連泊予約を可能とする販売コントロールの展開、ファミリーやグループ旅行者へのアプローチ強化を図るなどし、1部屋当たりの利用人数の拡大を追求したほか、需要予測に基づく販売価格の調整を早期から行うことで、客室単価の適正値維持に努め、さらなる収益改善が進みました。なお、J R市川塩浜駅前で運営する「CVS・BAY HOTEL」の本館リニューアル改装工事について、当初計画では、2024年10月から翌2月にかけて一部フロアを段階的・部分的に閉鎖、一部の稼働を維持したうえでの工事実施を想定しておりましたが、宿泊需要や人流予測、周辺環境の変化や近隣のイベント開催情報等を総合的に考慮した結果、年末年始の宿泊需要に一定の落ち着きが見られる2025年1月から春の行楽シーズンが本格化する同3月上旬にかけて、本館（本館増築棟は含まない）を完全休業とし、短期集中型の工事を行う方針といたしました。そのため、当第3四半期連結累計期間においては休業を含まない運営が実現できたことに加え、秋の行楽シーズンにおける需要の取り込み施策が好調に推移した影響から、当期の最高売上月と認識していた2024年3月をさらに上回る売上実績を同11月に記録するなど、売上高・利益ともに大きく伸ばいたしました。

ユニット型ホテル2施設におきましては、都心における宿泊需要の回復を受け、高止まりが続くビジネスホテルの客室単価高騰を背景に、リーズナブルで利便性の高い施設としての支持を受け、需要獲得が進みました。施設近隣では、既存の商業施設や大規模展示場に加え、新たに建設されたアリーナ等施設も稼働を開始するなど、当社事業にとっての好材料が顕在化しており、各種イベントの開催頻度や動員数が増加傾向にあることで宿泊需要はさらなる拡大を見せております。中長期目線でのイベント開催情報の収集強化を図るとともに、移動や宿泊にかかる費用を抑止しようとする顧客ニーズに応じ、需要予測に基づく販売コントロールの強化に努めております。

この結果、当第3四半期連結累計期間における業績は、ホテル事業収入15億34百万円（対前年同期比21.3%増）、セグメント利益4億21百万円（対前年同期比21.8%増）となりました。

## ② マンションフロントサービス事業

マンションフロントサービス事業におきましては、マンションコンシェルジュによる高付加価値サービスの提供を通じたワンランク上のマンションライフの実現に努め、独立系の企業として業界トップシェアを有しております。近年は、シェアオフィスや公共施設など、マンションコンシェルジュ業務にて培った高付加価値サービスを、マンション以外の受付業務においても発揮し、事業領域の拡大を図っております。

従来から手掛けるマンションフロントにおける居住者向けの各種生活支援サービスに加え、近年は、マンション居住者、管理組合、管理会社向け支援ツール「OICOS」の機能拡充に加え、100世帯以下の中・小規模マンション向けの「OICOS Lite」ならびに、同シリーズと連携可能なスマホアプリ「OICOS App」を通じ、マンション規模が小さく有人フロントサービスの提供が困難な物件への導入提案を推進するなど、有人フロントサービス以外の選択肢の開拓に努め、営業活動を強化、受託件数の積極的な獲得を進めています。また、2023年11月より、インターホンメーカー大手のアイホン株式会社が提供する、オートロックなどの集合玄関に対応した集合住宅用インターホンシステム「dearis (ディアリス)」とのIoTシステム連携による新機能の追加に加え、続く2024年10月には、宅配ロッカー大手の株式会社フルタイムシステムが提供する、集合住宅用宅配ロッカーシステムにおける「F-rents (フレンツ)」「シェアリングボックス」などのシェアリングサービスとのIoTシステム連携による機能拡張の提供を開始するなど、居住者向けの生活支援サービス、管理組合の運営支援、管理会社のサポート、及びマンション管理のさらなる効率化を図り、スマート且つワンストップな管理の実現にも取り組んでおります。一方で、管理組合の収益悪化や人件費の高騰・地域的な採用困難等を背景に、収益性が低く、管理費の増益交渉の成功も見込みづらい不採算の有人フロント物件に対しては、非有人でありながら高付加価値の提供を可能とする「OICOS」への切替の提案や、場合により解約・撤退交渉も実施するなど、収益性を重視した活動を継続して行っております。

当第3四半期連結会計期間末時点における総受注件数は706件（対前期末比42件減）、うち「OICOS」受注件数は159件（対前期末比16件増）となりました。

この結果、当第3四半期連結累計期間における業績は、マンションフロントサービス事業収入32億30百万円（対前年同期比0.1%増）、セグメント利益3億17百万円（対前年同期比0.0%増）となりました。

## ③ クリーニング事業

クリーニング事業におきましては、マンションフロント、コンビニエンス・ストア店舗や社員寮においてクリーニングサービスを提供しているほか、法人向けサービスとして、マンション内のゲストルームやホテルにおけるリネンサプライサービスの提供を行っております。

個人向けクリーニングにおいては、取次拠点の減少に加え、在宅勤務の普及によるワイシャツ、スーツのクリーニング需要の減少などにより、取次件数の減少傾向は続くものの、既存顧客へのアプローチを強化し、需要の掘り起こしに向けた施策を展開するほか、マンションフロント事業との親和性も高く今後の需要拡大も見込まれるハウスクリーニングや保管サービス等の新規獲得に加え、新たな試みとして、モバイルコミュニケーションツール「LINE」を通じ、クリーニング対象品の集荷依頼や各種ご相談を24時間で可能とし、キャッシュレス決済にも対応したトータルクリーニングサービス「オンラインコンシェルジュ」の展開を強化するなど、マンション居住者のそれぞれのニーズに対応し、フロントや近隣提携工場の有無にかかわらず常時提供できる利便性の高いサービスの拡販に努めておりますが、新規契約の獲得には遅れが見られることから、売上高・利益ともに減少しております。

この結果、当第3四半期連結累計期間における業績は、クリーニング事業収入1億33百万円（対前年同期比14.1%減）、セグメント利益28百万円（対前年同期比11.7%減）となりました。

## ④ コンビニエンス・ストア事業

コンビニエンス・ストア事業におきましては、千葉県及び東京都心において、ローソンブランドでの店舗運営を行っております。当社の強みである独創性を持った店舗作りを目指し、フランチャイズ本部が推進する各種施策に加え、立地特性に対応した独自仕入商品の販売を行うなど積極的な販売施策を進めるほか、商品カテゴリごとに粗利改善への取り組みを強化するなど、収益の向上にも注力いたしました。

主力店舗近隣の大型テーマパーク、商業施設、大規模展示場における各種イベントが連日開催されたことで、来場者数が大きく増加した影響に加え、自社ホテル併設の店舗においても、秋の行楽シーズンを背景とする国内宿泊需要の堅調な推移とインバウンド消費の拡大に伴う宿泊者数の底上げもあり、夕夜間の来店客数が増加、売上高は引き続き伸びてまいりました。

この結果、当第3四半期連結累計期間における業績は、コンビニエンス・ストア事業収入10億41百万円（対前年同期比5.4%増）、セグメント利益87百万円（対前年同期比20.1%増）となりました。

## ⑤ その他事業

その他事業におきましては、事業用不動産の保有や賃貸管理、ヘアカットサービス店舗の運営を行っております。

なお、2021年6月より運営を継続してまいりました「成田スカイウェイBBQ(CAMP)」につきましては、厚生水産株式会社との間で、2024年5月27日に当該固定資産に係る売買契約を締結、締結日を以て当該施設の閉業を行うとともに、当該固定資産の譲渡についても、同6月24日に譲渡先への引き渡しを完了いたしております。

この結果、当第3四半期連結累計期間における業績は、その他事業収入61百万円(対前年同期比23.0%減)、セグメント利益14百万円(対前年同期比25.8%減)となりました。

## (2) 当四半期の財政状態の概況

## (資産)

当第3四半期連結会計期間末における資産合計は、前連結会計年度末に比べて6億97百万円(6.8%)増加し、109億79百万円となりました。その主な内訳は、現金及び預金が1億11百万円、その他流動資産が89百万円それぞれ増加したことなどにより、流動資産が2億42百万円増加し、また、固定資産の譲渡による減少、繰延税金資産が1億93百万円減少したものの、アウトドアリゾート施設開業へ向けた建設仮勘定の増加などにより、固定資産が4億55百万円増加したことであります。

## (負債)

当第3四半期連結会計期間末における負債合計は、前連結会計年度末に比べて1億18百万円(1.7%)減少し、68億3百万円となりました。その主な内訳は、短期借入金が1億円減少したものの、買掛金が42百万円、1年内返済予定の長期借入金が41百万円、預り金が38百万円、その他流動負債が61百万円それぞれ増加したことなどにより、流動負債が84百万円増加した一方、長期借入金が1億93百万円減少したことなどにより、固定負債が2億2百万円減少したことであります。

## (純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産は、前連結会計年度末に比べ8億16百万円(24.3%)増加し、41億75百万円となりました。その主な内訳は、剰余金の配当を行ったほか、親会社株主に帰属する四半期純利益を9億19百万円計上したことであります。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2025年2月期(2024年3月1日~2025年2月28日)の通期連結業績予想につきましては、2024年7月9日に公表いたしました「業績予想の修正に関するお知らせ」の連結業績予想数値から変更はありません。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2024年2月29日)	当第3四半期連結会計期間 (2024年11月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,885,794	1,997,146
売掛金	441,228	465,781
商品	48,009	54,188
未収還付法人税等	19,631	31,348
その他	336,856	425,929
貸倒引当金	△108	△105
流動資産合計	2,731,413	2,974,289
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	1,967,616	1,876,632
土地	1,458,837	1,261,837
建設仮勘定	724,175	1,766,306
その他（純額）	120,517	63,404
有形固定資産合計	4,271,146	4,968,180
無形固定資産		
その他	38,287	38,959
無形固定資産合計	38,287	38,959
投資その他の資産		
投資有価証券	266,341	230,545
繰延税金資産	418,831	225,697
敷金及び保証金	167,020	164,369
投資不動産（純額）	2,376,372	2,353,811
その他	11,905	23,343
投資その他の資産合計	3,240,470	2,997,768
固定資産合計	7,549,904	8,004,908
資産合計	10,281,318	10,979,198

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2024年2月29日)	当第3四半期連結会計期間 (2024年11月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	156,856	199,213
短期借入金	1,680,000	1,580,000
1年内返済予定の長期借入金	291,050	332,597
未払金	493,860	492,405
未払法人税等	127,985	137,239
預り金	31,893	70,134
賞与引当金	16,657	9,487
その他	155,524	216,865
流動負債合計	2,953,827	3,037,943
固定負債		
長期借入金	3,347,270	3,154,011
退職給付に係る負債	65,718	65,647
長期預り保証金	364,073	353,632
資産除去債務	191,218	190,818
繰延税金負債	—	1,685
固定負債合計	3,968,280	3,765,796
負債合計	6,922,108	6,803,739
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,200,000	1,200,000
資本剰余金	164,064	164,064
利益剰余金	2,115,216	2,935,863
自己株式	△124,469	△124,469
株主資本合計	3,354,811	4,175,459
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	4,398	—
その他の包括利益累計額合計	4,398	—
純資産合計	3,359,210	4,175,459
負債純資産合計	10,281,318	10,979,198



(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 (四半期連結損益計算書)  
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2023年3月1日 至 2023年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2024年3月1日 至 2024年11月30日)
営業総収入	5,658,887	5,958,748
売上原価	3,112,989	3,168,692
営業総利益	2,545,897	2,790,056
販売費及び一般管理費	2,099,622	2,340,260
営業利益	446,275	449,795
営業外収益		
受取利息	13	237
投資有価証券売却益	—	14,984
不動産賃貸料	250,133	254,088
その他	9,883	4,636
営業外収益合計	260,030	273,946
営業外費用		
支払利息	22,276	33,303
投資事業組合運用損	2,311	2,089
不動産賃貸費用	216,513	240,595
その他	1,070	1,079
営業外費用合計	242,172	277,068
経常利益	464,133	446,674
特別利益		
固定資産売却益	—	828,406
資産除去債務消滅益	21,830	1,300
特別利益合計	21,830	829,706
特別損失		
固定資産除却損	539	—
その他	3,570	—
特別損失合計	4,109	—
税金等調整前四半期純利益	481,853	1,276,381
法人税、住民税及び事業税	105,182	160,245
法人税等調整額	△16,751	196,760
法人税等合計	88,431	357,006
四半期純利益	393,422	919,374
親会社株主に帰属する四半期純利益	393,422	919,374

(四半期連結包括利益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2023年3月1日 至 2023年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2024年3月1日 至 2024年11月30日)
四半期純利益	393,422	919,374
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	8,280	△4,398
その他の包括利益合計	8,280	△4,398
四半期包括利益	401,702	914,976
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	401,702	914,976

## (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(セグメント情報等の注記)

## I 前第3四半期連結累計期間(自 2023年3月1日 至 2023年11月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント					合計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	ホテル事業	マンション フロント サービス 事業	クリーニン グ事業	コンビニ エンス・ ストア事業	その他事業			
営業総収入								
顧客との契約 から生じる収益	1,255,293	3,177,007	148,500	988,809	22,342	5,591,952	—	5,591,952
その他の収益 (注) 3	9,503	—	—	—	57,431	66,934	—	66,934
外部顧客への 営業総収入	1,264,796	3,177,007	148,500	988,809	79,773	5,658,887	—	5,658,887
セグメント間の 内部営業総収入 又は振替高	—	48,467	7,514	—	—	55,982	△55,982	—
計	1,264,796	3,225,474	156,015	988,809	79,773	5,714,869	△55,982	5,658,887
セグメント利益	346,152	317,694	32,765	72,968	19,489	789,070	△342,794	446,275

(注) 1 セグメント利益の調整額△342,794千円には、セグメント間取引消去7,733千円、及び各報告セグメントに配分していない全社費用△350,527千円が含まれております。全社費用は、主に管理部門の人件費及び一般管理費であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

3 その他の収益は、「リース取引に関する会計基準」の範囲に含まれる不動産賃貸収入等であります。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

## II 当第3四半期連結累計期間(自2024年3月1日至2024年11月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント					合計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	ホテル事業	マンション フロント サービス 事業	クリーニン グ事業	コンビニ エンス・ ストア事業	その他事業			
営業総収入								
顧客との契約 から生じる収益	1,525,025	3,186,974	133,917	1,041,903	10,836	5,898,657	—	5,898,657
その他の収益 (注) 3	9,503	—	—	—	50,587	60,090	—	60,090
外部顧客への 営業総収入	1,534,528	3,186,974	133,917	1,041,903	61,424	5,958,748	—	5,958,748
セグメント間の 内部営業総収入 又は振替高	—	43,260	28	—	—	43,288	△43,288	—
計	1,534,528	3,230,235	133,945	1,041,903	61,424	6,002,036	△43,288	5,958,748
セグメント利益	421,572	317,751	28,926	87,661	14,453	870,366	△420,570	449,795

(注) 1 セグメント利益の調整額△420,570千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に管理部門の人件費及び一般管理費であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

3 その他の収益は、「リース取引に関する会計基準」の範囲に含まれる不動産賃貸収入等であります。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)の償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自2023年3月1日 至2023年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自2024年3月1日 至2024年11月30日)
減価償却費	118,050千円	113,879千円